



政府は、5月8日に新型コロナウイルスの位置づけを感染症法上の2類相当から、季節性インフルエンザと同じ5類へ変更し、感染対策について、それまでの「法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組み」から、「個人の選択を尊重し、国民の皆様の自主的な取り組みをベースとしたもの」に変更しました。

少し前、3月13日にマスクの着用は既に個人の判断となっていました。なかなか外せず、今回の決定で改めて「マスクをしなくてもいいんだ!」と思われた方も多いことでしょう。

でも、5類になって我々の日常で何が変わるのでしょうか?

~.....*~*

▼△ 5類に移行～コロナ禍の節目に ▲▼

~.....*~*

最初に、5類になった理由ですが、

「オミクロン株が主流になってからは発生初期と比較して重症度が低下。患者へ自宅待機や入院の勧告といった強力な措置を行うほど国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがある状態とは考えられない」ことから変更されることとなりました。

われわれの日常で何がかわるかですが、まず、感染者や濃厚接触者への行動制限がなくなります。

(感染者本人については症状がある場合は発症後5日間経過するまで外出を控えることが推奨されています。もちろん、換気やこまめな手洗いなど基本的な感染対策は引き続き大切です。)

また発熱した場合は2類相当指定医療機関のみで受け付けされていましたが、5類移行後は一般医療機関でも受診できるように医療体制が移行していています。

医療費については、インフルエンザのように保険診療(自己負担あり)となります。コロナの直接の治療薬については令和5年9月末まで無料となっています(診療や解熱剤・鎮咳薬といった費用は保険診療(自己負担あり)です)。

ワクチン接種については、2024年3月末までとなり、回数は高齢者などは1年に2度、それ以外の方は1年に1度の接種となるということです。

エンタメの世界はどうでしょうか?音楽のイベントでは、マスク着用はやはり任意となり、客席から大声も出していいと、コロナ前のコンサートスタイルになっています。

手拍子などによる応援もいいですが、みんなが声を出せる、盛り上がるコンサートが戻ってきました。

飲食店での感染対策は事業者の判断で行われます。

大手の外出チェーンを見ますと、入り口のアルコール・検温はなしにし、客席アクリル板も原則撤去、ただし、従業員のマスク着用は個人の主体的な選択を尊重し個人の判断に委ねるといったところが多いようです。

水際対策については、5類への移行を前に、4月29日に終了しました。

政府はこれまで海外から入国する人に対し、3回のワクチン接種の証明書などを求めていましたが、こうした措置もなくなりました。

旅行業界では、今後さらに海外からの観光客が増えることを見据えた動きも出ています。

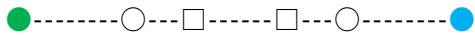
全日空の井上慎一社長は4月29日、羽田空港で報道陣に対し、

「これまででは心理的に海外に行くことを控えておこうというハードルがあったと思うが、今日を節目になくなると思う。いかにわくわくとした気持ちで海外旅行に行っていたのかを思い出してもらい、ぜひ、海外旅行を楽しんでいただきたい」

と述べたそうです。

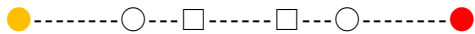
今回の5類移行は、3年以上にわたり多くの制限が行われてきたコロナ禍のひとつの“節目”になります。

油断はいけませんが萎縮することなく、やりたいこと、楽しみにしていること、どんどん叶えていきましょう!



-暮らしに役立つお知らせ MEMO-

「緊急地震速報」が出たときの行動、今一度確認を



今月に入り全国で震度4以上の地震が相次いでいます。

震度4以上または長周期地震動階級3以上を予想した地域には「緊急地震速報」が出されますが、発表されてから地震の強い揺れが来るまでは、長くても十数秒から数十秒しかありません。その短い間に何ができるでしょうか。

【緊急地震速報が出されたら…】

●家庭で屋内にいるとき

- ・家具の移動や落下物から身を守るため、頭を保護しながら大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる
- ・あわてて外に飛び出さない
- ・料理などで火を使っている場合、その場で火を消せるときは火の始末、火元から離れているときは無理に火を消しに行かない

- ・扉を開けて避難路を確保する

●人が大勢いる施設（大規模店舗などの集客施設）にいるとき

- ・あわてずに施設の係員や従業員などの指示に従う
- ・従業員などから指示がない場合は、その場で頭を保護し、揺れに備えて安全な姿勢をとる
- ・吊り下がっている照明などの下から退避する
- ・あわてて出口や階段に殺到しない

●エレベーターに乗っているとき

- ・最寄りの階で停止させて、すぐに降りる

●屋外にいるとき

- ・ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる
- ・ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる

●山やがけ付近にいるとき

- ・落石やがけ崩れに注意し、できるだけその場から離れる

●鉄道・バスに乗っているとき

- ・つり革や手すりにしっかりつかまる

●自動車運転中

- ・後続の運転手が緊急地震速報を聞いているとは限らないため、自動車運転中は、あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけず緩やかに速度を落とす
- ・ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止する

緊急地震速報を見聞きしたときは、上記を参考に落ち着いて身を守る行動をとるようにしてください。

■備蓄品チェックリスト（例）

- ☐ 飲料水：一人1日3リットルを目安に、最低3日分、できれば1週間分を用意
- ☐ 食品：ご飯、レトルト食品、缶詰、またビスケットや板チョコなど嗜好品、一人最低3日分
- ☐ 下着、衣類
- ☐ トイレットペーパー、ティッシュペーパーなど
- ☐ マッチ、ろうそく
- ☐ ラップ（お皿に敷けば洗わなくてよい）
- ☐ カセットこんろ
- ☐ フル充電にしたモバイルバッテリー
- ☐ 懐中電灯やヘッドランプ、ランタン、交換用の乾電池
- ☐ 携帯型扇風機やうちわなど
- ☐ ポリタンク（日頃から水道水をためておけば災害時に生活用水として使える）

以上